第３章　新潟市の農業

１　新潟市農業構想の概要

(1) 新潟市農業構想策定の趣旨

「新潟市農業構想」は、新潟市農業及び農村の振興に関する条例に示された基本理念に基づき、食料、農業及び農村に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とします。

新潟市農業及び農村の振興に関する条例の基本理念

食料	○安心で安全な農産物の安定的な生産 ○地場農産物の地域内の流通及び消費の促進
農業	○農地・農業用水等の農業資源及び多様な担い手の確保とこれらの効率的な組み合わせ ○自然環境と調和した持続的な農業の発展
農村	○良好な景観の形成、洪水の防止、生態系の保全等の多面的機能の維持 ○農産物の生産、生活及び地域活動が共存する場として整備、保全

(2) 構想の期間

令和５（2023）年度から令和 12（2030）年度まで

(3) 農業・農村の将来像

本市が目指す田園型政令市のイメージである「食と花の都」を継承しつつ、「新潟市総合計画２０３０」が示す基本的方向と整合・連携を図りながら、『食と花の都～都市と田園の調和を活かした持続可能な農業の実現～』を目指します。

（4）構想の目標

基本方針		指　標	現状値 令和３(2020)年度	目標数値 令和12(2030)年度
１　売れる米づくりと園芸産地づくりの推進	(1) 「儲かる農業」に向けた農業生産基盤の整備・保全 (2) 生産性向上と持続性の両立に向けたスマート農業技術の導入促進 (3) 意欲ある担い手等の確保・育成 (4) 新たな需要に応える農産物の生産体制の強化 (5) 所得拡大に向けた販売力の強化	①ほ場整備率	52.3%	65%
		②市管理農業用排水機場の機能保全計画に基づく長寿命化対策の実施率	50%	毎年度 100%
		③認定農業者等への農地集積率	70.9%	85%
		④新規就農者数	80人 （令和３年）	70人 （令和12年）
		⑤環境への負荷を低減させる取組の面積	31,403a	58,000a
		⑥農業産出額うち米・麦・大豆等主要作物の産出額及び交付金	343.1億円 （令和２年）	拡大させる
		⑦１億円園芸産地の販売額の合計額	102.3億円 （令和３年）	133.8億円 （令和12年）
２　農業を活かしたまちづくり	(1) 地域資源を活用し、コミュニティの活力を創出 (2) 食と農への理解促進とシビックプライドの醸成 (3) 新潟の農産物と食文化を全国に発信	⑧登録した農業サポーターのうち活動した人数（登録者全体に対する割合）	142人 (34%)	210人 (50%)
		⑨多面的機能支払交付金事業によって広域的に保全管理される農用地面積の割合	81%	95%
		⑩食と農のわくわくSDGs学習プログラム実施校数	―	60校
		⑪学校給食における地場産物を使用する割合（金額ベース）	県産 58.4%	県産 61.9%
		⑫新潟市食文化創造都市推進プロジェクトの採択事業数	83件	147件

2　統計から見た新潟市農業の概要

(1) 農業経営

項　目 (巻末に凡例あり)		単位	数値	全県 数値	県内 順位	県内に 占める 割合	備　考
農業経営体数		経営体	7,032	43,502	1	16.1%	農林業センサス(2020年) 組織形態別経営体数
農業経営体の雇用者数		人	8,222	37,544	1	21.8%	農林業センサス(2020年) 雇用者の状況
農家数		戸	9,675	62,556	1	15.4%	農林業センサス(2020年) 総農家数
※	販売農家	〃	6,813	41,751	1	16.3%	同上
	自給的農家	〃	2,862	20,805	1	13.7%	同上
農家率		%	2.9%	7.2%	—	—	同上　および 国勢調査(2020年:世帯数) から算出
基幹的農業従事者数		〃	10,379	46,085	1	22.5%	農林業センサス(2020 年) 年齢階層別の基幹的農業従事者数
耕地面積		ha	32,700	167,200	1	19.6%	作物統計調査(2024 年)
	田	〃	28,200	148,500	1	19.0%	同上
	畑	〃	4,470	18,700	1	23.9%	同上
水田率		%	86.2%	88.8%	—	—	作物統計調査(2024 年)から算出
耕地率		%	45.0%	13.3%	—	—	作物統計調査(2024 年)および 全国都道府県市区町村別面積調(2025 年 4 月値)から算出
経営耕地面積		ha	28,463	138,041	1	20.6%	農林業センサス(2020 年) 経営耕地の状況
一戸当たり経営耕地面積		〃	2.94	2.20	—	—	経営耕地面積÷農家数
一経営体当たり経営耕地面積		〃	4.04	3.17	—	—	経営耕地面積÷農業経営体数
農業産出額		億円	517.6	2,231.4	1	23.2%	市町村別農業産出額(2023年)

※ 2020 年農業センサスから、専業・兼業の区分がなくなった

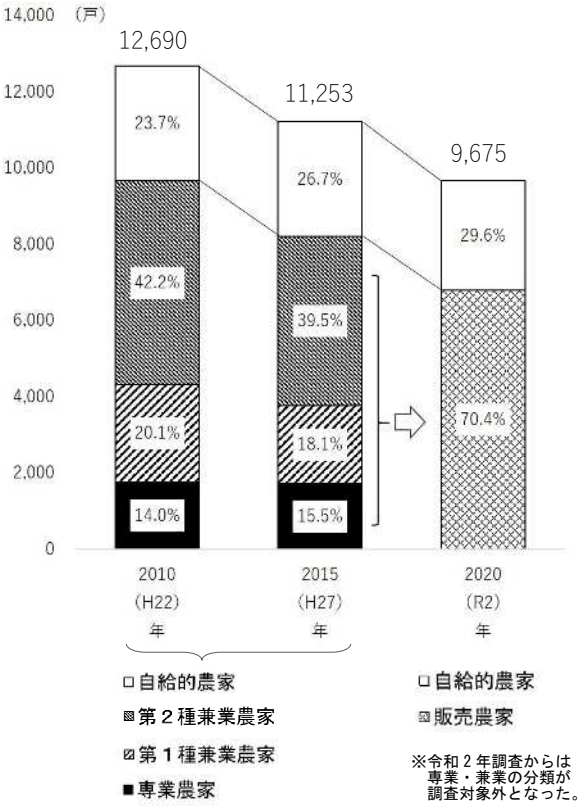
(2) 主な農業生産物　(水稲、大豆)

項　目		単位	数値	全県 数値	県内 順位	県内に 占める 割合	備　考
水稲	作付面積	ha	24,700	116,200	1	21.3%	作物統計調査(2024年)
	収穫量	t	137,200	622,800	1	22.0%	〃
	10アール当たり収量	kg	556	536	1	—	〃
大豆	作付面積	ha	1,160	4,230	1	27.4%	〃
	収穫量	t	2,050	6,850	1	29.9%	〃
	10アール当たり収量	kg	177	162	7	—	〃

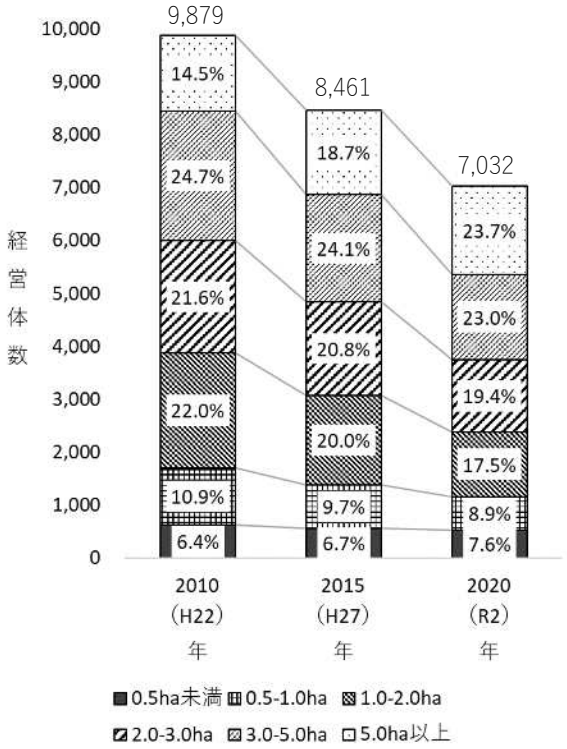
(3) 主な畜産物

項　目	単位	数値	全県数値	県内順位	県内に占める割合	備　考
乳用牛飼養頭数	頭	634	4,854	3	13.1%	新潟県家畜生産実態調査（2025年2月1日）
肉用牛飼養頭数	頭	567	11,920	8	4.8%	〃
豚飼養頭数	頭	20,350	150,586	3	13.5%	〃
採卵鶏飼養羽数	羽	68,490	5,730,770	7	1.2%	〃

(4) 農家戸数



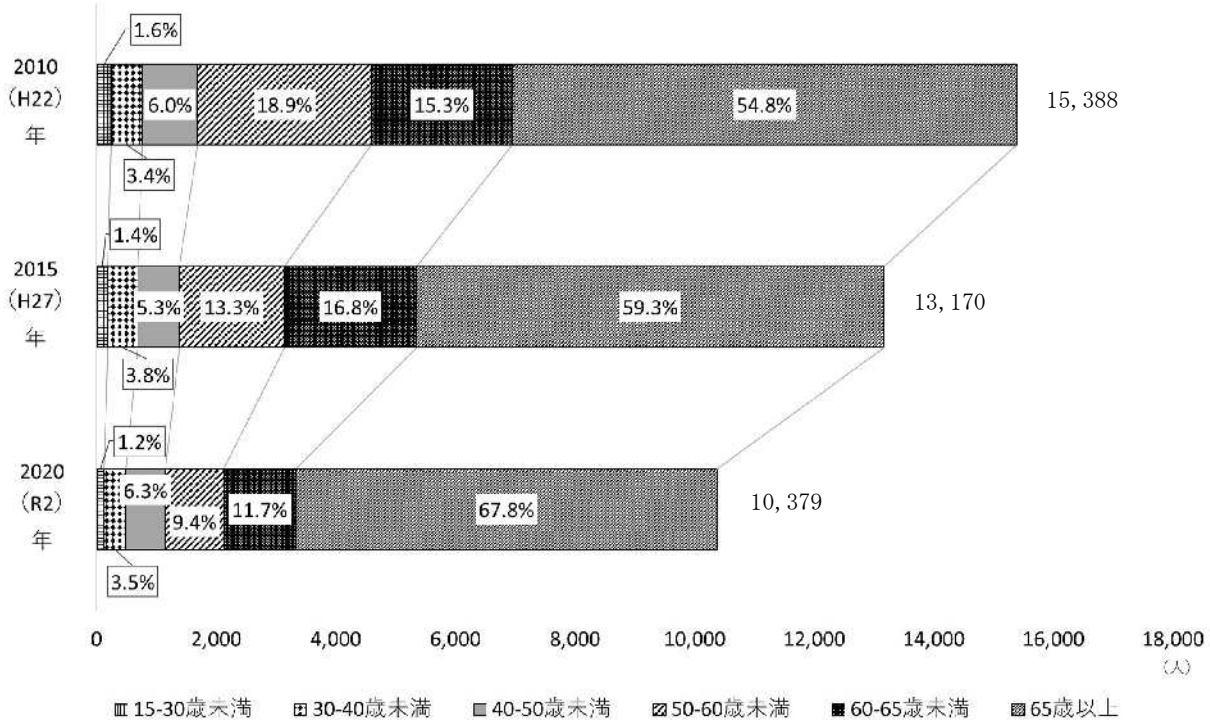
(5) 経営耕地面積規模別経営体数



令和2年の農林業センサスにおける本市の農家戸数は9,675戸で、前回（平成27年）より1,578戸（14.0%）減少した。なお、令和2年調査からは専業・兼業の分類が調査対象ではなくなり、自給的農家か販売農家かの統計となった。

農業経営体数は7,032と前回より1,429（16.9%）減少した。経営耕地面積規模別に見ると、5.0ha以上のクラスが占める率が18.7%から23.7%へと5.0ポイント増加し、経営規模拡大の進展が見られる。

(6) 年齢別基幹的農業従事者数



令和 2 年の農林業センサスによる本市の基幹的農業従事者数は 10,379 人で、前回平成 27 年の農林業センサスより 2,791 人（21.2%）減少した。65 歳以上の高齢者の割合は前回から 8.5 ポイント増加。生産年齢人口である 65 歳未満の世代の離農が加速し、高齢化が進行している。

3　農業生産等の概況

(1) 水稲

ア　作柄状況

令和 6 年産は、下越の作況指数が 97 となるやや不良の年で、一等米比率は、コシヒカリ 75.0%、こしいぶき 92.2%であった。

検査成績（単位：30 ㎏換算個・%）

区分／種類	検査総数	等級比率（%）			
		1 等	2 等	3 等	規格外
水稲うるち米	1,902,759	79.7	19.3	0.7	0.3
醸造用玄米	22,941	82.7	16.6	0.8	0.0
もち玄米	101,508	50.9	45.0	3.1	1.0
加工用米※	480,799	84.1	15.4	0.5	0.0
合　計	2,508,007	79.4	19.6	0.8	0.2

（新潟市調査：11 月末 JA・新潟県主食集荷商業協同組合報告値）

※加工用米等水田活用米穀、JA 報告値のみ。備蓄米を含む。

イ　生育状況

生育ステージ	概　況
播種～育苗期	・播種盛期は 4 月 11 日（平年より 1 日遅い） ・育苗日数は 25 日間（平年より 1 日短い） ・苗は徒長・老化傾向 ・一部では、急激な気温上昇により、ヤケ苗が散見された ・高温により細菌病の発生が助長された
田植～分げつ期	・田植日の盛期は、5 月 6 日（平年より 1 日遅い） ・5 月上中旬の低温・強風による植え痛みあり ・ワキや表層はく離の多発により茎数が抑制
幼穂形成期～出穂期	・出穂期　こしいぶき：7 月 24 日（平年-1 日） コシヒカリ： 8 月 3 日（平年-1 日） ・降水量：平年比 118%　日照時間：平年比 49% ・1 回目の穂肥は、慎重に、2 回目は確実な施用。高温基調に対応した 3 回目の施用。
登熟期～収穫期	・出穂期～登熟期間は早生・中生・晩生について高温で推移した。 ・台風による強風等の影響が少なかったが、8/14、8/25 の降雨により、コシヒカリの倒伏が著しかった。 ・コシヒカリの品質は「並」、作柄は「やや不良」。

（新潟県新潟農業普及指導センター「令和 6 年度新潟地域の作物」）

ウ　病害虫の発生状況

病害虫名	発生量	発生の特徴・問題点及び対策等
いもち病	葉：並 穂：並	・葉いもちは、7 月の日照不足により風通しの悪いほ場等で早生品種、新之助で発生が見られた。 ・穂いもちは葉いもちが見られた地域を中心にわたぼうし、新之助で発生が見られた。
紋枯病	並	・品種を問わず発生が見られる。 ・全体的は少発生だが、早生品種等では発生により倒伏が助長されたほ場が散見された。
ごま葉枯病	やや多	・8 月第 3 半旬以降、低地力ほ場で、発病が増加した。 ・上位葉の病斑や穂枯れが見られるほ場があった。
斑点米カメムシ類	多	・アカスジカスミカメ等のカスミカメ類を主体に発生した。 ・7 月の日照不足により籾のふ割れが発生し、被害を助長したと思われる。

（新潟県新潟農業普及指導センター「令和 6 年度新潟地域の作物」）

(2) 大豆

ア　作柄状況

推定平均収量は 147kg/10a で、前年比-35 kg、平年比-27 kgであった。2 等級以上比率は 2.5%で、平年と比べ 2.5 ポイント減少し、品種別では里のほほえみは 2.5%、エンレイは 0%であった。

イ　生育状況

生育 ステージ	概　況
播種期～ 出芽期	・播種期の好天により適期に作業が進められ、播種盛期は 6 月 8 日で平年比 1 日早かった。 ・播種後の適度な降雨により、出芽苗立ちは良好であった。一部播種後の降雨が少なく、再播種したほ場が見られた。
伸長期～ 開花期	・下葉の黄化や生育停滞等の湿害の発生は少なかったが、7 月の降雨により培土が 1 回に止まったほ場や適期実施出来なかったほ場で雑草が多発した。 ・開花期は 7 月 23 日と平年より 1 日遅かった。
着莢期～ 子実肥大期	・培土を適期に実施できなかったほ場では、雑草が多発した。 ・7 月第 1～6 半旬の降雨で水分過多のほ場が目立ったが、全般的に生育は旺盛であった。
成熟期～ 収穫期	・落葉及び成熟が緩慢なほ場も散見され、成熟期のほ場間差、ほ場内バラツキも大きかった。 ・成熟期は 10 月 22 日で平年より 10 日遅く、収穫盛期も青立ち株の発生が各地で目立ったことが一因となり 10 月 31 日と平年より 8 日遅かった。
収量・品質	・管内全体の作柄は「不良」。夏季の高温による青立ち株の発生等により収量が低下したほ場もあり、地域間差が大きかった。品質は「平年並」。 ・品種別の推定平均収量は里のほほえみが 152kg/10a（前年差-19kg）、エンレイが 139kg/10a（前年差-66kg）と、前年より減少した。 ・大粒比率は 60.9%（前年+5.0%）で前年より高く、品種別では里のほほえみ 79.1%（前年-3.7%）、エンレイ 38.0%（前年+6.0%）であった。

（新潟県新潟農業普及指導センター「令和 6 年度新潟地域の作物」）

ウ　作柄影響要因

	要　因
プラス要因	・適期播種 ・中耕培土の実施
マイナス要因	・出芽期の降雨による湿害 ・子実肥大期の寡少 ・カメムシの吸汁害

（新潟県新潟農業普及指導センター「令和 6 年度新潟地域の作物」）

(3) 野菜

本市の野菜生産は、稲作に次ぐ重要な部門を占めており、恵まれた地理的条件を生かし、市内をはじめ県内外への野菜供給基地として主産地を形成している。

畑作耕地面積は、4,470ha（農林水産省農林水産関係市町村別データ令和 6 年値）で、県内の約 24%を占めている。

多くの園芸品目の中から、「にいがた十全なす」、「くろさき茶豆」、「女池菜」、「新潟すいか」、食用菊「かきのもと」、いちご「越後姫」、やきなす、トマト（大玉系）及びながいも、やわ肌ねぎ、さつまいも「いもジェンヌ」を新潟市食と花の銘産品に指定している。

(4) 切花・球根・花木類

本市では、産出額全国トップクラスのチューリップをはじめとして、多種類の花き生産が行われている。

多くの品目の中から、新テッポウユリ「ホワイト阿賀」、チューリップ（切花・球根）、アザレア、ボケ及びクリスマスローズを新潟市食と花の銘産品に指定している。

(5) 果樹

ア　産地概況

本市では、多様な果樹の生産がなされているが、そのうち、西洋なし「ル レクチエ」、日本なし「新高」、「新興」、かき「越王おけさ柿」、うめ「藤五郎梅」、ぶどう「巨峰」及びいちじく「越の雫」を新潟市食と花の銘産品に指定している。

産地の状況

作目	栽培面積 (ha)	主な栽培地区	主な品種
日本なし	196	北区豊栄地区 南区白根、月潟地区 江南区横越、亀田、両川地区 西蒲区中之口地区	新興、新高、幸水、豊水、二十世紀 あきづき
西洋なし	57	南区白根、月潟地区 江南区亀田地区	ル レクチエ

作目	栽培面積 (ha)	主な栽培地区	主な品種
かき	113	北区豊栄地区 秋葉区新津地区 西蒲区巻地区	平核無、刀根早生（越王おけさ柿）
ぶどう	89	南区白根、月潟地区 西蒲区中之口地区	巨峰、デラウェア、ロザリオビアンコ、 甲斐路、シャインマスカット
もも	83	南区白根、月潟地区 西蒲区中之口地区	白鳳（日の出） 、八幡白鳳、白根白桃、 川中島白桃、なつおとめ、なつっこ あかつき
うめ	5	江南区亀田地区	藤五郎梅、越の梅
いちじく	…	北区豊栄地区 南区白根地区 西区笠木地区 西蒲区巻、潟東地区	桝井ドーフィン

栽培面積：2020 年農林業センサス

※いちじくについては、農林業センサスの公表値なし

作目	生産動向
日本なし	・高齢化、気象災害の影響等により栽培面積、生産者数ともに減少傾向である。 ・伐採される園も多いが、担い手農家への作業委託により維持されている園地もある。 ・県育成品種「新碧」の苗木販売が始まり、各産地では令和 6 年春から新規導入が進んでいる。
西洋なし	・栽培面積、生産者数はともにほぼ横ばいである。 ・セイヨウナシ褐色斑点病の発生は前年からやや多くなり、令和 6 年は県内産地と同様に早期落葉や果実被害が多発して出荷量が減少した。
かき	・近年は栽培条件が良い柿団地でも生産者のリタイアが続いており、地域の担い手による園地受託も限界となっている。 ・所得率の高い等階級の果実生産に向けて、早期摘らいを実践している。
ぶどう	・シャインマスカットの出荷量は年々増加、販売額を伸ばしている。 ・赤系の有望品種については、「クイーンニーナ」を中心に各品種の特性把握や栽培技術の導入が進められており、出荷量・販売額は増加傾向にある。
もも	・栽培面積や生産量は減少傾向にある。 ・せん孔細菌病対策として、防風網の設置や秋季防除の徹底等により近年の発生は少発生に抑えられている。
うめ	・高齢化や樹園地の宅地化等により栽培面積は減少している。 ・郊外の園地では風当たりが強く、病害の発生により生産量の低下を招いている園地もある。
いちじく	・生産者、栽培面積とも変動はなかった。

（令和 6 年度新潟地域の農業概況）

(6) 葉たばこ

西区赤塚地区、西蒲区巻地区の砂丘畑で栽培され、耕作面積は県内の約半分を占めていたが、平成 24 年度に日本たばこ産業株式会社より廃作の募集が行われた結果、市内の大半のたばこ農家が廃作に応じ、栽培面積、生産者数ともに 23 年比 80%以上減少した。

令和 6 年産葉たばこ生産・販売実績

耕作人員（人）	耕作面積（ha）	販売重量（t）
16	35.9	90.0

（農林政策課調べ・北越たばこ耕作組合提供）

(7) 畜産

畜産経営は、畜種を問わず全体的に高齢化が進展しているうえ、臭いや排せつ物処理に起因する環境問題等により飼養戸数は減少傾向にある。配合飼料価格、輸入粗飼料価格が高水準で推移していることから、ＷＣＳ用稲や飼料用米等の生産・利用の拡大による生産費の低減が課題となっている。

畜種別では、酪農経営については、江南区・秋葉区・南区・西蒲区 17 戸で 634 頭（雌牛計）が飼養されている。輸入粗飼料価格が高水準で推移しており、生産費の増加が経営を圧迫している。

肉用牛経営では、北区・秋葉区・西蒲区 7 戸で 567 頭（飼養頭数計）が飼養されている。

養豚経営は、南区、西蒲区を中心に 11 戸 20,350 頭（飼養頭数計）が飼養されている。飼料価格の高騰等による生産費の増加や枝肉卸売価格の低下から収益性が低下するなか、食品残さの飼料化によるエコフィードを利用した飼料費低減の取組みも見受けられる。

採卵鶏飼育経営では、6 戸 68,490 羽（種鳥、雛を除く）であり、北区・江南区・秋葉区を中心に飼養されている。

（農林政策課調べ（令和 7 年 2 月 1 日現在））

(8) 環境保全型農業実践者の状況

ア　にいがたエコファーマー

「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律」（みどりの食料システム法）では、県が、環境負荷低減に取り組む農業者が作成する「環境負荷低減事業活動実施計画」を認定し、計画の認定を受けて環境負荷低減に取り組む農業者を「にいがたエコファーマー」（愛称）と呼んでいる。認定された計画に基づく取組に対しては、税制・金融措置での支援や、各種予算事業でメリット措置が受けられる。市内において、令和 6 年度は 34 件の新規認定があった。

エコファーマー等認定状況　（件）

作目	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度 にいがた エコファーマー	R6 年度 にいがた エコファーマー
水稲	115	74	117	24	6	4
大豆	1	2	0	0	1	1

作目	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度 にいがた エコファーマー	R6 年度 にいがた エコファーマー
大麦	0	1	0	0	0	0
野菜	81	9	3	3	0	27
果樹	86	9	3	0	1	2
花き	6	2	1	0	0	0
合計	289	97	124	27	8	34

※R 元年度から R4 年度はエコファーマーの数値を記載。認定件数は、新規認定と更新認定の合計。

1 人で複数品目の認定を受けることができるため、認定品目数を表記している。

イ　新潟県特別栽培農産物

新潟県内で、農薬の使用回数及び化学肥料の使用量を慣行栽培の概ね 5 割以下に削減して栽培された農産物を、県が特別栽培農産物として認証する制度で、市内では令和 6 年度に 60 件、283.63ha が認証されている。

新潟県特別栽培農産物認証状況

作目	R2 年度		R3 年度		R4 年度		R5 年度		R6 年度	
	(件)	(ha)	(件)	(ha)	(件)	(ha)	(件)	(ha)	(件)	(ha)
米	75	356.63	63	316.85	63	321.55	72	526.40	57	282.2
大豆	1	0.89	3	0.62	1	0.51	1	0.51	1	0.51
野菜	11	5.85	8	4.27	4	2.31	7	3.30	1	0.40
果樹	4	22.2	2	0.74	2	0.67	1	0.52	1	0.52
合計	91	385.57	76	322.48	70	325.04	81	530.73	60	283.63